

第2章 応用編

— TeX で出版物を作りましょう！ —

2.1 文書の構造

2.1.1 ドキュメントクラス

これまで、ファイルの先頭に `\documentclass{ }` のような宣言をしてきましたが、TeX では、最初に必ず文書の種類を指定しなければなりません。`{ }` の中には、作成する文書の用途によって以下のような指定を入れます。

欧文 (標準)	和文 (標準)	用途
article	jarticle	論文、レポート
report	jreport	長い報告書
book	jbook	本

2.1.2 ドキュメントクラスのオプション

ドキュメントクラスでは、文書の種類だけでなく、オプションとして、文字サイズ、用紙サイズ、段組みを指定できます。指定するには、`\documentclass[a4j,twocolumn]{jreport}` のように、角かっこ [] を使います¹。

文字サイズ

- (10pt) 指定なしの場合、ほぼ 10 ポイント
- 11pt 本文の文字サイズを 11 ポイントにする
- 12pt 本文の文字サイズを 12 ポイントにする

用紙サイズ

- a4paper A4 判 (210mm × 297mm)
- a5paper A5 判 (148mm × 210mm)
- b4paper B4 判 (257mm × 364mm)
- b5paper B5 判 (182mm × 257mm)

旧版の日本語 L^AT_EX で使えたオプション (`a4j,a5j,b4j,b5j`) を使うと、左右の余白が少なくなります。

¹複数のオプションを指定する場合、カンマで区切ります。この時順番は関係ありませんが、前後に空白を入れてはいけません。

段組み

`twocolumn` 二段組にする
`tate` 縦組み (縦書き) にする

2.1.3 章や節

章や節の構造を記述するために、次のような命令を使います。

<code>\part{...}</code>	部の見出し
<code>\chapter{...}</code>	章の見出し (<code>jbook</code> 、 <code>jreport</code> のみ)
<code>\section{...}</code>	セクションの (節) の見出し
<code>\subsection{...}</code>	サブセクション (小節) の見出し
<code>\subsubsection{...}</code>	サブサブセクションの (小小節) の見出し
<code>\paragraph{...}</code>	段落の見出し
<code>\subparagraph{...}</code>	小段落の見出し
<code>\begin{quotation}</code>	引用の始め
<code>\end{quotation}</code>	引用の終わり
<code>\begin{quote}</code>	短い引用の始め
<code>\end{quote}</code>	短い引用の終わり

2.1.4 タイトル、著者など

タイトルとして書き込みたい情報には、次のような環境が用意されています。

<code>\title{...}</code>	題名
<code>\author{...}</code>	著者名
<code>\date{...}</code>	日付
<code>\maketitle</code>	上記 3 つの出力命令

例題 8

(入力)

```
%\test8
\documentclass{jarticle}←文書の指定
\begin{document}
\title{ピッチの変動特性を指標とした言語音声の検討}← 題名
\author{芝崎 朱美\\ (大阪大学大学院人間科学研究科)}← 著者：長い場合は\\で改行
\date{}← 日付：いないときは空白で OK
\maketitle← 出力命令

\section{はじめに}← 節の題名

\end{document}
```

例題 8 のファイルを作って、`TEX` でコンパイルしてみましょう。